

室蘭工業大学-学報

NO.656



伊達共成長オフィス、テープカットの様子
(7ページに関連記事あり)

2024年 6月号

目 次

◇ トピックス ◇

M-COINSが新入生オリエンテーションで新規メンバー募集に関する発表を行う	1
デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー「M-COINS」が活動中	2
董副学長・太田教授の推進する研究が「Yahoo! ニュースオリジナル特集」で配信	3
美瑛町と包括連携協定を締結	4
有村教授がコーディネーターを務めた「スマートモビリティシンポジウムin室蘭」	5
QSアジア大学ランキングで501-550位にランクイン	6
伊達共成長オフィス(SIP事業：だてプロ)こけら落とし、第1回だて未来ゼミを開催	7
土木女子会およびOGによる公務員説明会を開催	8
令和6年度事務職員基礎知識習得研修を実施	10
三笠市立萱野中学校が大学訪問	11
室蘭工業大学・春のウポポイ見学ツアー2024	12
R6年名誉教授の称号授与	14
室蘭工業大学学生広報スタッフ任命式	15

◇ 情報・資料 ◇

イギリス大学訪問記	16
-----------	----

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ	20
受託研究等の受入れ	21
奨学寄附金の受入れ	22

◇ 人 事 ◇

人事異動	23
------	----

◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催	24
-------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事	25
-----------	----

トピックス

M-COINSが新入生オリエンテーションで 新規メンバー募集に関する発表を行う

令和6年4月3日(水)に室蘭工業大学体育館で行われた新入生オリエンテーションでM-COINS（デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー）のメンバーが新規メンバー募集に関する発表を行いました。

M-COINSとは、本学のデジタル・キャンパス（注）の実現に向けた取組を促進するために令和5年度に創設された「デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー」制度に応募し、任命された学生のチームです。

当日はメンバーの高見陸さん（システム理化学科4年）が体育館の壇上で発表を行い、新入生は入学宣誓式後に配布された資料からQRコードを読み取り、自分のスマートフォンから発表資料を確認しながら説明を聞

いていました。また、発表時間中にオンラインフォームからリアルタイムで質問を募集し、その際に投稿されたメンバー構成や活動頻度について回答しました。当日回答できなかった質問や、発表後にあった質問については今後は学務情報システムCampus Squareの掲示板や本学公式X（旧Twitter）等で回答予定です。

なお、今後の展望として、本学で導入しているクラウド型コンテンツ管理基盤「Box」についての授業での説明や現在本学で導入が検討されている大学公式アプリに関する資料提供、本学公式X（旧Twitter）での広報活動が挙げられました。



発表の様子



発表の様子



発表の様子



発表の様子

デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー「M-COINS」が活動中

室蘭工業大学は、令和5年度から本学のデジタル・キャンパス（注）の実現に向けた取組を促進するため、デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー（以下、アンバサダー）制度を創設し、令和5年7月、11月に任命された4名の学生が活動を行っています。

令和5年度、本アンバサダーのチーム名が「M-COINS（エム-コインズ）」に決定して、本格的に活動が始まりました。「M」は本学（Muroran Institute of Technology）、「COINS」は「Crew of Information Scientists」の略称で、大学の情報に関する科学者（学生）という意味が込められています。

現在は、令和5年11月から大学内の学生・教職員が利

用できるようになったクラウド型コンテンツ管理基盤「Box」の学生への周知や、現在検討を進めている大学公式アプリの機能について議論を進めています。また、今年度の新入生オリエンテーションでは、新規メンバーの募集を行いました。

今後も引き続き大学内のデジタル・キャンパス化に向けて活動の幅を広げていく予定です。

注：セキュアな情報基盤の中で大学内のあらゆるデータを発生時点からデジタル化することを基本とし、それをサイバー空間で活用するデータ駆動型キャンパスのこと。



11月に任命されたメンバーの認定証授与の様子



11月に任命されたメンバーの認定証授与の様子



活動の様子



活動の様子

董副学長・太田教授が推進する研究が 「Yahoo! ニュースオリジナル特集」で配信

董副学長、太田教授が推進する災害支援に関する研究が、Yahoo! ニュースオリジナル特集『能登地震「携帯つながらない」被災地の通信途絶 新技術で解消なるか 災害に備える』に取り上げられました。

詳細は下記URLをご覧ください。
<https://news.yahoo.co.jp/articles/1a38ae9b46e3adaca052c56b409aa15e154f370a?page=1>

美瑛町と包括連携協定を締結

令和6年4月24日(水)、室蘭工業大学と美瑛町は、相互に連携し、持続可能な地域社会の創生と人材育成及び学術の振興に寄与することを目的として、包括連携協定を締結しました。

協定式において本学の松田学長は、「美瑛町と本学は、本学同窓会の社会連携大学協力会の協力を得ながら、令和5年3月から包括的な連携に関する協議を重ね、今日の日を迎えることができた。今後は、美瑛町をフィールドに脱炭素などの具体的な取組みを進め、美瑛町が保有する様々な資源に対し、本学の研究シーズを活用した新たな価値の創造を目指し、ひいては、北海道を『世界水準の価値創造空間』にすることに貢献していきたい。」と話し、美瑛町の角和町長は、「室蘭工業大学の同窓OBである協力会メンバーの力をお借りし、本日を迎えることができた。室蘭工業大学の学術的な知見をお借りし、美瑛町における地域の課題解決を目指していきたい。まずは大きな柱の一つとしてゼロカーボンの取組みから進めていく。社会の変革に伴い、自治体だけで解決できる課題は少なくなっており、学術的な知見や一般の方の力をお借りして、美瑛町の課題を解決していきたい。今回

の協定を機に、今後より一層パートナーシップを強固なものとした。」と話しました。

今後は、脱炭素に関わる研究を行っているカーボンポジティブラボの教員や住宅の省エネルギーに関わる研究を行っている教員などを中心に美瑛町のゼロカーボンの推進に関する連携から始め、その後、美瑛町における様々な課題解決を目指した連携活動についても、取組みを進めてまいります。

連携の内容

- (1) 地域づくり・まちづくりの推進に関すること
- (2) 地域脱炭素化の推進に関すること
- (3) 観光振興や産業振興など地域経済の発展に関すること
- (4) 環境の保全及び防災対策の推進に関すること
- (5) 住民との協働の推進に関すること
- (6) 教育及び人材育成の推進に関すること
- (7) その他相互に連携協力することが必要と認められる事項に関すること



署名する角和町長（左）と松田学長（右）



記念撮影の様子

有村教授がコーディネーターを務めた「スマートモビリティシンポジウム in 室蘭」が、経済産業省公式YouTubeチャンネルにて公開

令和6年1月27日に開催された経済産業省北海道経済産業局主催のアーカイブ動画が経済産業省公式YouTubeチャンネルにて公開されました。

●パネルディスカッション概要

経済産業省北海道経済産業局は、移動課題の解決および地域の活性化を目指し、道内各地でMaaSの実証実験を実施してきました。これまでの取組を社会実装に繋げるためには、地域理解をより一層深めることが不可欠であることから、実証地域の一つである北海道室蘭市でスマートモビリティシンポジウム in 室蘭を開催しました。

【テーマ】 地域の公共交通課題と解決方法について

【登壇者】

《コーディネーター》

室蘭工業大学 大学院工学研究科 もの創造系領域
教授 有村 幹治 氏

《パネリスト》

室蘭市 都市建設部都市政策推進課
主査 堀井 数史 氏

パナソニックITS（株）室蘭開発室
室長 佐藤 慎吾 氏

（株）野村総合研究所
アーバンイノベーションコンサルティング部
主任コンサルタント 稲垣 仁美 氏

【経済産業省公式YouTubeチャンネル】

▼スマートモビリティシンポジウムin室蘭 PART1
スマートモビリティシンポジウムin室蘭①
(youtube.com)

▼スマートモビリティシンポジウムin室蘭 PART2
<https://www.youtube.com/watch?v=pGRJr6s5pDo>
※有村研究室では学生と共にデータサイエンスを都市・交通・防災計画の立案支援に活用する研究を行っています。

QSアジア大学ランキングで501-550位にランクイン

イギリスのQS社から、2023年11月にQSアジア大学ランキングが発表され、室蘭工業大学は501-550位にランクインしました。

QSアジア大学ランキングは日本、中国、インド、韓国、シンガポールなどのアジア圏の大学のうち、856大学がランクインし、日本からは96大学がランクインしています。

特に道内では、北海道大学に次いで、本学がランクインしています。

QSアジア大学ランキングは、英国の高等教育専門調

査会社（QS Quacquarelli Symonds Limited）が毎年発表しており、世界的な認知度、研究能力、教育資源、国際化などを評価しているランキングとなっています。また、第三者評価が大きな割合を占め、大学のブランド力、イメージが影響する世界で最も参考にされている世界大学ランキングの一つです。

室蘭工業大学は工業大学としての教員の確かな研究力と40,000人余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。



伊達共成長オフィス(SIP事業：だてプロ)こけら落とし、 第1回だて未来ゼミを開催

伊達市を舞台に展開している内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」の事業（通称：だてプロ、<https://dtpro.jp/>）に関して、代表研究開発機関の室蘭工業大学（共同機関：株式会社浅井農園、伊達市、愛媛大学）は、伊達共成長オフィス（浅見ビル壺号館 北海道伊達市鹿島町6-7）を設けました。

令和6年5月10日に伊達市長オフィスのこけら落とし（開所式）を開き、松田学長や堀井伊達市長らが出席し、テープカットで、開所を祝いました。オフィスは今後、伊達市民、生徒等の皆さま、室蘭工業大学の学生、教職員が、伊達市をはじめ地域の未来を自ら創造する場としての役割を果たします。

松田学長は「だてプロにおける伊達共成長オフィスは、『理想的な未来社会を伊達市に具現化していくための拠

点』です。伊達市の皆さまをはじめ、本学の学生・教職員、関係する皆さまが集い、未来を熱く語り、学びあい、未来社会を実現していくための拠点となり、伊達市で展開されている多くの取組みと融合することにより、大きなうねりを生んでいくことを確信している。」と挨拶を行いました。

こけら落とし後は、同オフィスにおいて、第1回だて未来ゼミが開催され、三重大大学の西村教授の講演に引き続き、浅井農園の浅井代表をファシリテーターとしたゼミを行い、伊達市を含む地域の将来について活発な意見交換が行われました。

今後は、同オフィスにおいて、伊達市の未来に向けた「地域イノベーションの可能性」を主なテーマに議論を展開していきます。



関係者によるテープカット



三重大大学・西村教授の講演



ゼミにおいて活発な議論を交わす参加者



伊達共成長オフィス

土木女子会およびOGによる公務員説明会を開催

令和6年5月17日(金)に教育・研究1号館C棟において、OGによる公務員説明会、工大カフェ TENTOにて土木女子会を開催しました。

説明会に先立ち、参加した約30名の学生に対し、土木工学ユニット長の川村副学長が「土木工学トラック・コースでは、2015年から土木工学を学ぶ女性学生が土木技術者として学び、働くための意見交換の場を提供することを目的としたOG説明会や土木女子会を開催しています。参加した皆さんは、将来の自分の姿をイメージしながら、多くのことを学んでください。」と話されました。

OGによる公務員説明会

創造工学科建築土木工学コース土木工学トラックの学生を対象に、公務員としての仕事内容や意義、当時の就職活動等をOGの方々に発表して頂き、公務員に関する就職活動の情報共有を目的として開催されました。説明会には、約30名の学生が参加し、講演者は、就職活動、実際の仕事内容、学生時代の研究活動、女性技術者として土木業界で働くことなどについて話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。



北海道開発局開発監理部 開発調整課 小西さん



室蘭市港湾部 港湾政策課 計画係 西島さん



登別市都市整備部 熊谷さん



OGによる公務員説明会で活発な質疑応答が行われる

土木女子会

OGによる公務員説明会終了後、工大カフェ TENTO で土木女子会を開催しました。

土木女子会は、土木業界では女性技術者が特に少ないため同世代の女性同士のつながりをもつことを目的として、18名の土木工学系女性学生（学部3、4年・大学院1、2年）と3名のOGが参加しました。

3テーブルに分かれ、かつ各テーブルにはOGを1名ずつ配置し、公務員の仕事状況や当時の就活状況・進路などについて積極的に情報交換を行いました。



工大カフェ TENTOでの土木女子会の様子

令和6年度 事務職員基礎知識習得研修を実施

令和6年4月、新規採用事務職員4名を対象とした事務職員基礎知識習得研修を実施しました。

本取組は、事務職員として備えるべき基礎知識やスキルを習得させるために、総務広報課や研修に関する企画調整部門が計画・実施する研修として令和4年度にスタートしたもので、今回で3回目の実施となります。

研修講師は、吉田事務局長、佐藤理事（総務・財務担当）や各課事務職員等が担当し、「室蘭工業大学の概要・広報について」、「国立大学法人法基礎講座」、「Excelマスター講座」、「市内見学及び白老実験場視察」など各種プログラムを中心に研修を行いました。

研修を受講した外岡さんは「国立大学法人基礎講座や法人文書作成講座を通じて大学職員として必要な知識・スキルを身に付けることができただけでなく、本学の概要・広報についての講座や市内見学では本学や室蘭市の魅力を知ることができました。また、EXCELマスター講座では年齢が近い先輩職員が講師となって指導してくれるなど同期だけでなく同年代の先輩職員とも交流を深めることができよかったです。研修で学んだことを活かし、本学に貢献することができるよう頑張りたいです。」と意気込んでいました。



修了式での記念撮影



白老実験場の見学



日常業務講座



カーボンポジティブラボの紹介

三笠市立萱野中学校が大学訪問

三笠市立萱野中学校の生徒8名が、室蘭工業大学を訪れました。

一行は、ロボットアリーナスタッフの指導のもと、ムロピョンカーの組み立てとプログラミング体験をしました。その後、附属図書館を見学しました。

実施日：令和6年5月17日(金)9時00分～11時30分

場 所：ロボットアリーナ、附属図書館

参加者：生徒8名、引率3名



ロボットアリーナでの実習



附属図書館を見学

室蘭工業大学・春のウポポイ見学ツアー2024」を開催

令和6年5月19日(日)に室蘭工業大学ウイズ・ミュージアム タスクフォースが主催し、北海道白老町にある民族共生象徴空間(ウポポイ)を訪問する「室蘭工業大学・春のウポポイ見学ツアー2024」を開催しました。事前に登録した学生28名(学部生22名、大学院生6名)と教職員19名の合計47名が参加しました。

民族共生象徴空間(ウポポイ)の中核施設である国立アイヌ民族博物館と室蘭工業大学は、令和5(2023)年10月26日に包括連携協定を締結しました。本イベントは、協定締結後初めての見学ツアーとなりました。

この見学ツアーでは、参加者がイベント全体をとおして、アイヌの歴史・文化に対する正しい理解を促すとともに、国立アイヌ民族博物館と本学との連携や協働による「総合知の創出と活用」について主体的に考え、活動するきっかけをつくることを目的として実施しました。

本学から貸切バスで移動し、博物館職員の方からレクチャーを受けたのち、自由に国立アイヌ博物館内と民族共生象徴空間(ウポポイ)園内を見学し、全員でアイヌ伝統芸能を鑑賞しました。

その後、博物館内の交流室をお借りし、9グループに分かれて、「室工大と国立アイヌ民族博物館が力を合わせて、どんなことができそうですか?」をテーマに、見学やこれまでの経験から、やってみたいこと、あったらいいなこと、などをリラックスした雰囲気の中で話し合いました。ディスカッションで集まったアイデアはこれから集約して、今後の企画に役立てる予定です。

今回のイベントをきっかけにして、新たに学生や教職員を巻き込んだ連携活動の輪が広がり、理工系の大学が北海道の先住民文化や博物館活動にどのように関わっていいのかを考えることで、異分野・異業種の連携により革新的なアイデアが生み出され、地域発イノベーションの《種》となることが期待されます。



はじめに博物館職員の方からレクチャーを受けました



博物館の基本展示にて、田村・資料情報室長のギャラリートークに熱心に聞き入る参加者の様子



本学留学生が設置に協力したイスラム教の礼拝堂

トピックス



グループディスカッションではたくさんのアイデアが出され、活発な討議を行いました



森岡・教育普及室長による、モデルを使ったマレク漁の説明



最後に参加者で記念撮影。おつかれさまでした

名誉教授称号授与式を挙行

令和6年3月31日限り退職された空閑良壽氏、河合秀樹氏、木村克俊氏、溝口光男氏、齋藤英之氏、クラウゼ小野マルギット氏に対して、令和6年4月1日付けで、室蘭工業大学名誉教授の称号が授与されました。

称号授与式は令和6年5月22日(水)16時30分から本部棟3階中会議室において行われ、出席された空閑良壽氏、河合秀樹氏、木村克俊氏、溝口光男氏、齋藤英之氏、クラウゼ小野マルギット氏に称号の授与がなされた後、松田学長から本学の発展へのご尽力に感謝の言葉が述べられました。



松田学長を囲んで記念撮影

室蘭工業大学学生広報スタッフ “むろこーほー” 任命式

令和6年5月21日に室蘭工業大学学生広報スタッフ “むろこーほー” 任命式を行いました。

学生広報スタッフ “むろこーほー” は室蘭工業大学の魅力を学生目線で発信し、学生の生の声を届けるために令和4年度から導入されました。この度むろこーほー第2期生として7名の学生が任命されました。

任命式では松田学長から新メンバーへ認定証とムロぴよんのぬいぐるみが贈られました。続いて松田学長、佐藤広報室長、むろこーほー現メンバーの江藤さん、パーカーさんを交えて懇談をおこないました。松田学長、佐藤広報室長からは「大学の広報を学生の目線で盛り上げてほしい。学業と両立して頑張ってください」と激励の言葉があり、新メンバー一人ひとりから意気込みをきかせてもらいました。新メンバーは「特にSNSで室蘭工業大学の魅力発信に取り組みたい」と意気込みました。



イギリスの大学訪問記¹

白 尚燁、董冕雄、太田香、佐藤孝紀、空閑良壽

2024年1月下旬に空閑良壽前学長、佐藤孝紀理事・副学長、董冕雄副学長・教授、太田香教授・コンピュータ科学センター長、白 尚燁准教授の本学訪問団がイギリスのストラスクライド大学（University of Strathclyde）、オックスフォードブルックス大学（Oxford Brookes University）、ブリストル大学（University of Bristol）を訪問いたしましたので、下記のとおり、その報告をいたします。

1. ストラスクライド大学（University of Strathclyde）

今回イギリス出張の最も大きな目的は、スコットランド地方のグラスゴーに位置しているストラスクライド大学との学術交流協定締結でした。ロンドンヒドロ空港から飛行機で1時間の距離のグラスゴーは、人口が63万人のイギリス3番目の大きな町です。グラスゴーは、高等教育や研究の中心地としても知られ、都心から16キロ以内に10以上の大学や研究機関が集まっています。



ジョージ広場にあるジェームスワット像



グラスゴー市役所通り

1.1. ストラスクライド大学の概要と学術交流協定締結調印式

1796年創立されたストラスクライド大学は、グラスゴーにある大学の中でグラスゴー大学の次に歴史の長い大学です。ストラスクライド大学は、工学部、理学部、人文社会科学部の3学部とビジネススクールで成り立っており、教職員数は3,500人で学生数は23,000人です。本学との学術交流が期待できる工学部には建築、化学、生物医学、土木、電気電子、機械・航空など多様な工学分野が設置されており、特に電気工学分野において世界トップレベルの研究成果を発信してきました。ストラスクライド大学との交流は、本学の佐藤理事・副学長が在外研究で1年間ストラスクライド大学に滞在し、Igor Timoshkin電気電子工学部准教授との共同研究を始めたことが出発点となり、今回両大学が学術交流協定を締結する

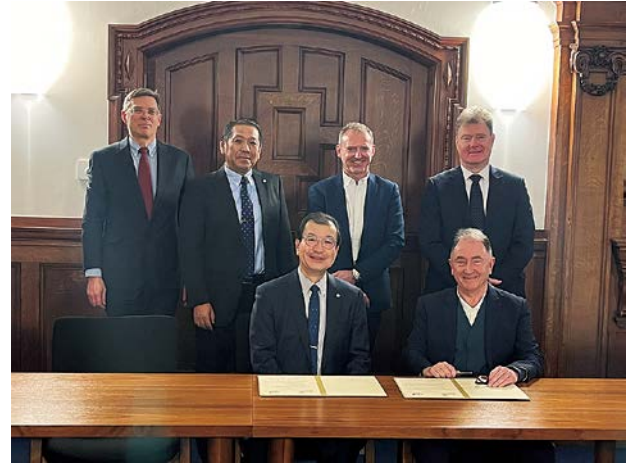
¹ 本学訪問者と相手大学対応者は、訪問当時の職名・所属による。

ことになりました。

1月29日に行われた学術交流協定調印式には、ストラスクライド大学のSir Jim McDonald学長、Scott MacGregor副学長・教授、Stephen McArthur工学部長・教授、Igor Timoshkin電気電子工学部准教授が出席し、学術交流協定締結調印と今後の学術交流に関する協議を行いました。両大学は電気工学分野を中心に共同研究と学生交流を進めていくことに合意しました。本学がスコットランドの研究教育機関と学術交流協定を締結することは今回が初めてで、今後、電気工学分野の若手教員と大学院生を派遣することにより、研究におけるモチベーションの向上、異分野理解の深化、語学力の向上が期待されます。



ストラスクライド大学正門で記念撮影



調印後の両大学参加者の記念撮影

1.2. 研究施設見学



SEARCHの入り口



SEARCH研究員から説明を受けている本学訪問団

学術交流協定締結調印式の前後にはTimoshikin准教授の協力で行った研究施設Sensor Enabled Automation Robotics & Control Hub (SEARCH)とTechnology and Innovation Centre (TIC)を見学しました。1971年立ち上げられ、50年以上の歴史のあるSEARCHは、ロボット工学、自動化、データマネジメント、AIなどの自動化ロボットと制御に関する研究に焦点をあて、機械工学、電気工学、物理学、数学などの多様な分野の研究者と製造エンジニアがチームとなり、学際的研究を行っているのが大きな特徴です。

TICは、産学協力によるテクノロジーの革新と新たな価値づくりを目指す目的で2015年に立ち上げられた研究施設です。TICには製造、材料、健康、福祉、海洋、航空、宇宙などの幅広い分野の研究プロジェクトが実施されており、各プロジェクトには、学界の研究者、産業界の研究者、エンジニア、プロジェクトマネージャーが参加しており、イノベーションと起業家精神に基づき、新たな価値づくりに取り組んでいます。



Technology and Innovation Centerの標識



Timoshikin准教授の研究室見学

2. オックスフォードブルックス大学 (Oxford Brookes University)

2月1日、本学訪問団はオックスフォードに移動し、オックスフォードブルックス大学を訪問しました。今回の訪問は、本学の董副学長・教授と長年研究交流のあったコンピューターサイエンス専門のZHU Hong教授の協力により、実現となりました。

1865年創立されたオックスフォード芸術学校 (Oxford School of Art) を起源とするオックスフォードブルックス大学は健康・ライフ科学、テクノロジー学部、デザイン学部、環境学部の4学部とビジネススクールで構成され、教職数は2,800人で学生数は17,000人です。



情報・数学・工学部棟



図書館



モータースポーツ工学研究室見学



ZHU Hong教授研究室の前で両大学関係者

オックスフォードブルックス大学は、特に情報工学、ロボット工学、ネットワークング、ソフトウェア工学などの情報分野において優れた研究教育機関として評価されています。また、自動車やモータースポーツ工学分野も非常に発展しており、F1レーシングとのパートナーシップ締結、一般企業との連携によるレーシングカーの開発、F1などカーレーシング大会への参加、大学内でフォーミュラーチームの運営などが実施されています。

3. ブリストル大学 (University of Bristol)

イギリス出張の最後の訪問先はブリストル大学でした。ブリストル大学への訪問も本学の董副学長・教授と研究交流のあったブリストル大学WU Yulei准教授の協力により、実現となりました。

ロンドンから車で2時間の距離のブリストル市に位置しているブリストル大学は、人文学、工学、医学・歯学、生命科学、理学、社会科学・法学の6つの学部で構成され、教職員数は8,200人、学生数は30,000人を超える総合大学です。ブリストル大学は、コンピューター工学、数学、電気工学、土木工学、物理学、化学、医学などの理工系分野ばかりではなく、経済学、経営学、法学の人文・社会分野においても世界トップレベルの研究と教育が行われています。

ノーベル賞受賞者（教職員と同窓生を含む）を13名も輩出してきたブリストル大学は、オックスフォード大学とケンブリッジ大学に次ぐイギリスの名門校で、常に世界大学ランキングトップ100と英国のトップ10大学にランクインされています。



Wu准教授から大学キャンパスの説明を受けている本学訪問団



工学部棟の前で記念撮影

4. 学長所感

今回のイギリス訪問は、私の学長としての任期の中で最後の外国出張となりました。個人的な話となりますが、これまで私はイギリス訪問に関して機会に恵まれず、理化学研究所時代に1度、さらに本学着任後も1度キャンセルとなっており、この度3度目の正直？で訪問が実現しました。とりわけ、電気電子系が強いストラスカイド大学との学術交流協定の締結まで行えたことは、同大学と佐藤理事・副学長との長年の研究交流が大きく寄与しており、大変嬉しく、また素晴らしいことだと思います。今回の3大学で共通して感じたことは、いずれの大学においても産学連携が大変進んでおり、民間企業の資金や人、研究テーマが大学と一体となって活用されている感が強くあり、本学も見習いたいと感じました。また番外編となりますが、ロンドンではちょうど本学の若手研究者海外派遣事業でロンドン大学SOAS滞在中の曲明先生にお会いする機会がありました。たいへん、いきいきとされていて、本学の教員の皆さんが海外で活躍されている姿を直接見ることができ、貴重な時間でした。

本学の訪問団を温かく受け入れてくださった、イギリスのストラスカイド大学、オックスフォードブルックス大学、ブリストル大学の関係者の皆様に深くお礼を申し上げながら、イギリスの大学訪問の報告を終えたいと思います。

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額 (千円)
もの創造系領域 教授 風間俊治	中小企業	1,100
もの創造系領域 准教授 浅田拓海	大企業	5,980
もの創造系領域 准教授 松本大樹	中小企業	260
もの創造系領域 特任教授 相津佳永	大企業	2,200
しくみ解明系領域 教授 大平勇一	大企業	585
しくみ解明系領域 教授 近藤敏志	大企業	1,300
しくみ解明系領域 助教 島津昌光	大企業	715
しくみ解明系領域 特任教授 岸上順一	大企業	1,430
合計 (8件)		13,570

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額 (千円)
もの創造系領域 准教授 森原浩平	大企業	1,859
合計(1件)		1,859

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額 (千円)
公益財団法人福岡直彦記念財団	工学研究助成	1,100
公益財団法人池谷科学技術振興財団	工学研究助成	2,000
一般財団法人北海道河川財団	工学研究助成	1,500
一般社団法人日本鉄鋼連盟	工学研究助成	750
個人寄附者（1件）	工学研究助成	1,350
株式会社HRC研究所	工学研究助成	500
精電舎電子工業株式会社	工学研究助成	300
北電総合設計株式会社	工学研究助成	1,100
公益財団法人高橋産業経済研究財団	工学研究助成	3,000
株式会社砂子組	工学研究助成	3,000
勇建設株式会社	工学研究助成	2,000
株式会社大昌電子	工学教育助成	100
株式会社ダイセル	工学研究助成	500
日本石灰協会	工学研究助成	200
日本製鉄株式会社	工学研究助成	500
日本製鉄株式会社	工学研究助成	500
ヒロセ補強土株式会社	工学研究助成	500
日本製鉄株式会社	工学研究助成	500
一般社団法人スマートプロセス学会	工学研究助成	200
株式会社不二製作所	工学研究助成	1,700
合 計 (20件)		21,300

人事

人事異動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異動内容	氏名	現職
	〈採用〉		
令和6年6月1日	大学院工学研究科教授（しくみ解明系領域）	小野 頌太	東北大学金属材料研究所准教授
	〈命〉		
令和6年5月8日	学長補佐（任期：R7.3.31）	永野 宏治	
	〈採用〉		
令和6年6月1日	大学院工学研究科 特定専門職員	高岡 聡子	
	大学院工学研究科 事務補佐員	竹田 侑加	
	ものづくり基盤センター 技術補佐員	遠藤 友人	
	ものづくり基盤センター 技術補佐員	加藤 裕也	
	ものづくり基盤センター 技術補佐員	地主 諒佑	
	ものづくり基盤センター 技術補佐員	田代 琢真	
	ものづくり基盤センター 技術補佐員	原 珠栄	

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 4月25日～5月24日 >

開催日時 令和6年4月30日(火)
会議名 第2回企画戦略会議

開催日時 令和6年5月7日(火)
会議名 第3回役員会

開催日時 令和6年5月8日(水)
会議名 第1回経営協議会

開催日時 令和6年5月8日(水)
会議名 第4回役員会

開催日時 令和6年5月9日(木)
会議名 第2回教育研究評議会

開催日時 令和6年5月9日(木)
会議名 第5回役員会

開催日時 令和6年5月14日(火)
会議名 第3回企画戦略会議

開催日時 令和6年5月21日(火)
会議名 第6回役員会

開催日時 令和6年5月23日(木)
会議名 第2回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

学内行事

- 5月11日(土) 2024年度10月入学大学院博士後期課程CS×専門入試
- 5月24日(金) 合格発表【2024年度10月入学 大学院博士後期課程(外国人留学生入試)(国外出願第2次募集)・CX×専門入試】

学外行事

- 5月10日(金) 伊達共成長オフィス(SIP事業:だてプロ)こけら落とし第1回だて未来ゼミ(伊達市)
- 5月17日(金) AI・DX人材育成シンポジウム(福岡)
- 5月23日(木) 北海道国立大学シンポジウム(オンライン)

編集後記

◆ 本学は今年、創立75周年を迎えます。創立75周年記念ムロびょんや記念ロゴマークなど作成しております。オープンキャンパス用のうちわや、のぼりなども創立75周年記念ロゴを使用して作成しました。うれしいことにロボットアリーナの職員の方が学生さんとムロびょんの電子楽器を作成して、持ってきてくださいました。素晴らしい出来栄で、イベントに登場するのが楽しみです。

大学オリジナルグッズはもっと頑張らねばと考えており、学生広報スタッフ“むろこーほー”の発案で、Tシャツができればと思っています。そろそろ室蘭も暑い日が続く季節がやってきましたので、Tシャツほしいな.....と思います。

ゆくゆくはムロびょんの着ぐるみ帽子も.....



(Garoon : 総務広報課秘書広報係、E-mail : koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308